

所 属 長 印

同 志 社 大 学

2014 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2015 年 3 月 19 日提出

所 属	職 名	氏 名	印
ビジネス研究科	准教授	藤原 浩一	
研 究 題 目	マクロ経済動向と企業財務の関係について：シミュレーションモデルの構築		
研 究 成 果 の 概 要	<p>2011,2012 年度はオプション理論を基礎に、競合企業のイノベーションが自社のキャッシュフロー構造を破壊した場合に生じる資産価値破壊のスピードの検証方法を研究した。2012 年度はイノベーションが財務構造を破壊し信用リスクを発生させるメカニズムを研究した。2013 年度は経営判断と財務の関係についてシミュレーションの手法をし、企業が採用するビジネスモデルにより企業が保有するリスク量の変動することを明らかにした。2014 年度は以上の研究をベースにマクロ経済変動が企業価値に与える影響を研究した。</p> <p>2014 年度の研究テーマの元々の問題意識は、リーマン・ショックのような金融面の現象が世界経済へ影響したこと、特にデリバティブとは無関係な製造業に大きな影響を与えたことに端を発する。このような企業リスクは一産業の競争状態のみでは説明が出来ず、マクロ経済変数を前提にして検証可能となる。そこで財務構造とマクロ経済の関係を明らかにすることを研究の主眼においた。</p> <p>本年度の研究成果は主に2つに集約される。ひとつは、マクロ経済変数の影響を取り入れた貸借対照表と損益計算書の連結関係を明示したシミュレーションモデルを作成したこと、もう一点は、マクロ経済変数変動の影響を最小化するビジネスモデルが存在する可能性を明確にしたことである。</p> <p>以上のモデルを前提に、企業価値を毀損するリスク要因を貸借対照表および損益計算書ごとに分析し、前者のリスク要因をフロー・リスク、後者のリスクをストック・バリュー・リスクとして分類づけられること、ストック・バリュー・リスクはさらに業界競争による直接リスクと、マクロ経済変動に起因する間接リスクに分類できることを検証した。またフロー・リスクも同様に直接・間接リスクが存在すること、フロー・リスクがストック・バリュー・リスクの直接要因として機能すること検証、さらに以上の分析を前提とした検証モデルのひな形をシステム・ダイナミクスにより作成した。</p> <p>以上分類したリスクファクターの変動特性は企業価値の独立変数として機能する。この点に着目し、企業が採用する戦略やビジネスモデルの性質をより正確に分類できるはずである。この点次年度の研究課題としたい。</p>		